

研究テーマ	〔Ⅲ 自分らしさを表現する造形教育を考える〕 自分らしさとは何かを考えながら描く、鉛筆による絵画制作 ～第2学年「面の達人」の実践を通して～
-------	--

銚田市立大洋中学校 教諭 牛久保 友子

## 1 研究テーマについて

「発想や構想」をするためには、自己の内面や自分の価値意識と向き合うことが大切である。しかし“自分らしさ”とは何かと問われたとき、すぐには言葉にできない生徒が多い。同様に“自分らしい表現”とは何か、悩む生徒も多い。何を描き、どのように表現することが自分らしいのかを考えると、生徒たちのアイデアスケッチの手は進まないことがある。そこで、“自分らしさ”とは何か、あらためて考える機会をつくることの必要性を感じ、本テーマを設定した。

学習指導要領解説に「日々の生活で感じ取ったことや考えたことなどを自分の感覚で自由に表現する活動は、自己を確認したり、新たな自分を発見したりすることでもある。」とある。そこから、生徒たちが日々の生活の中で、自分が心動かされているものは何かを考え、それを集めて画面を満たしていくことは、“自分らしさ”を表現することと同義になると考える。

そこで、「中学校美術科ワークショップ3～イメージと発想の展開編～」で紹介されている実践例を足がかりに、題材を『百種類の線』『面の達人』と設定し、取り組ませていく。制作には、紙と鉛筆という身近で使い慣れた道具を使うことで、生徒たちはより自分らしい内容を探りやすくなると考える。色の無い表現の中で、各生徒はそれぞれに鉛筆の使い方や描き方を工夫し、個性を表出するだろう。限られた道具の中で制作された、異なった内容や雰囲気をもった作品を生徒がお互いに鑑賞することで、自他の個性を再確認させたい。また、自分の好みに合わせて画面を埋め尽くし、一つの作品を描き挙げることは、各自が今後の制作に自信をもつことにつながるのではないかと期待する。

## 2 実践例

### (1) 題材名 「面の達人」

### (2) 題材の目標

自分らしさを考えながら表現することに関心をもち、感性や想像力を働かせて主題を生み出し、表現の構想を練り、鉛筆の特性を生かして創造的に表現するとともに、感性や想像力を働かせて他者の作品の造形的な良さや表現の工夫を感じ取り味わう。

### (3) 題材について

事前アンケートから、「アイデアを出すことを難しい」と感じている生徒は、28人中24人と大多数をしめることが分かった。また、「アイデアを出すときに気を付けていることは」という質問には、「人の真似をしないように」「自分らしさが出るように」「自分が仕上げられる下絵を描く」といった回答が多かった。ここからは、自分の内面と向き合いながら作品制作しようという下地があることが分かる。最後に「自分らしい作品が作れたと思うのはどんな時か」という質問には、「他の人と似ていない時」「自分のやりたいことができた時」といった答えの他、「人から君らしいと言われた時」「ほめられたとき」という意見もあった。このことから、他人の評価が自己評価に影響することが分かる、本題材でも機を見た相互評価の必要性を感じた。これらのアンケートからは、アイデアを自分なりに出していこうとする気持ちはあるが、具体的にどうすれば良いか分からないといった生徒たちの実態が見えてくる。

そこで、「中学校美術科ワークショップ3」の中で初田隆氏が実践をしている内容を参考に題材を設定する。本題材『面の達人』は、画面に線を引き、その線と線との間に生まれる様々な大きさや形の面に、模様や絵柄を描いていくという単純な課題である。発想・アイデアを生むということに焦点をあてた題材であり、自分が心動かされるもので画面を埋めることで、生徒たちにとって「自分らしさ」とは何かを考える機会としたい。

本題材に取り組む基盤作りのため、事前に同じ種類の線が重ならないよう、思いつくままに描いていく『百種類の線』という課題に取り組む。出来るだけたくさんの種類の線を発見することを目的とし、アイデアを形にする楽しさと難しさを知ることがねらいとしている。アイデアを生む苦しさにも耐え、制作を続ける体験は、今後の制作においても力になると考える。また発想に困った時には、身の回りや生活の中に目を向けることで、参考出来るものがたくさんある。そこからアイデアの一助とする習慣を身に付けさせ、自分好みのモチーフを集めることが、自分らしさを考えることにもつながると伝えたい。

本題材で使用する描画材鉛筆については、1学年で鉛筆によるグラデーション・陰影の付け方など、基礎的な使い方は身につけている。鉛筆で描き込むだけでなく、塗り込む、消しゴムで消しとる、指や布などを使ってぼかすという作業を振り返り、各自の表現方法に幅をもたせる。また、鉛筆も、Hから2B、4Bと濃さの変化も説明し鉛筆の濃淡の変化にもこだわりをもたせ、道具の違いによる表現の幅についても考えさせたい。

このようにして、自分の思いをもって、画面すべてを埋め尽くしたという達成感、今後の様々な課題においても自信につながるのではないかと期待する。

(4) 題材の評価規準

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<p><b>表</b> 自分らしさを考えながら表現することに関心をもち、主体的に心豊かな構想を練ったり、鉛筆の特性を生かして表現しようとしている。</p> <p><b>鑑</b> 美術の創造活動の喜びを味わい、他者の作品に関心をもち、主体的に見方や理解を深めようとしている。</p>	<p>感性や想像力を働かせ、自分らしさを基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。</p>	<p>感性や造形感覚などを働かせて、鉛筆の特性を生かし、自分の表現意図に合う表現方法を工夫し、創造的に表現している。</p>	<p>感性や想像力を働かせて、他者の作品の造形的な良さや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を感じ取っている。</p>

(5) 指導と評価の計画（4時間扱い）

※○印は時数

時間	学習内容・活動	評価規準・〔評価方法〕
第1次 ①	<p>『百種類の線』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ種類の線を描かないよう、百本の線を描く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしさを考えながら線を描こうと、主体的に取り組んでいる。 〔<b>関</b> 観察・作品〕</li> <li>・自分らしさを生かし、工夫して表現しようとして構想を練っている。 〔<b>想</b> 観察・作品〕</li> </ul>
第2次 ②	<p>『面の達人』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・線の間のできた面を、鉛筆を使い、模様や絵柄などで埋めていく。</li> </ul> <p>(本時②の1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしさを考えながら、主体的に創造的な構成を工夫して表現しようとして取り組んでいる。 〔<b>関</b> 観察・作品〕</li> <li>・自分らしさを生かして主題を生み出し、創造的な構成を工夫しようとして構想を練っている。 〔<b>想</b> 観察・作品〕</li> <li>・鉛筆という用具の特性を生かし、表したいイメージにあわせて創造的に表現している。 〔<b>技</b> 観察・作品〕</li> </ul>
第3次 ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの作品を鑑賞する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作者の思いや表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。 〔<b>鑑</b> 観察・ワークシート〕</li> </ul>

(6) 本時の展開

① 目標

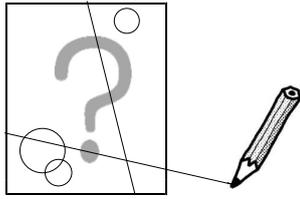
感性や想像力を働かせ、自分らしさを基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。  
〔**想** 観察・作品〕

② 準備・資料

B4コピー用紙・鉛筆・資料集

③ 展開

学習活動・内容	指導上の留意点 評価 発問
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>面の達人になろう ～自分らしさを考えながら～</p> </div>	<p>今回の課題で使う道具は、紙と鉛筆だけです。そしてルールは、紙に線を引き、そこにできた様々な形や大きさの面を模様やイラストで埋めていく、というただ1つです。簡単な道具とルールの中で、みなさんそれぞれの個性で面を埋め尽くし、面の達人になりましょう。</p>



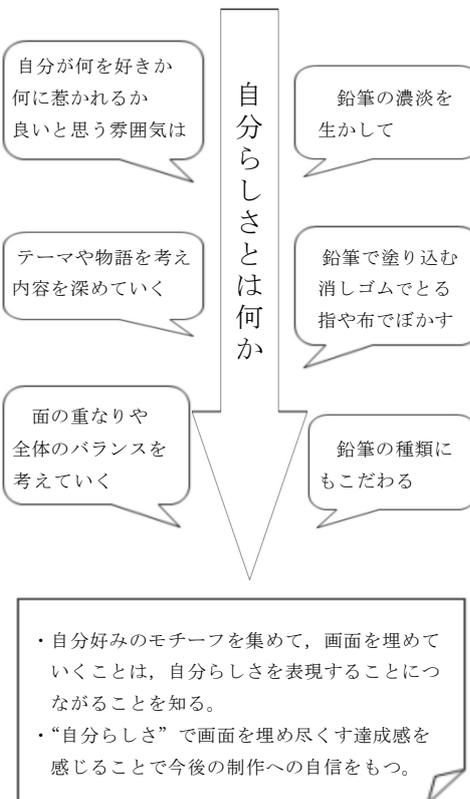
## 2 制作をする。

### (1) 線を引く。

### (2) 面を埋めていく。

〈発想や構想の能力〉

〈創造的な技能〉



## 3 参考作品を鑑賞する。

## 4 次回への見通しをもつ。

- ・線を引き、その線と線との間にできた様々な形や大きさの面を模様やイラスト埋めていくという単純なルールの課題であることを伝える。
- ・使う道具は、紙と鉛筆だけであることを伝え、限られた道具の中でも各自のアイデアで面を埋めつくし、各自の個性を表現していくことを確認する。
- ・実際に、黒板に線を引いて面をつくり、説明することで課題への具体的なイメージをもたせる。
- ・前回の課題『百種類の線』で発想力を高めることができたことを振り返り、本活動への意欲につなげたい。

- ・線をどこにどう引くかでも、作品の印象は変わってくることを伝え、今後の見通しをもちながら制作をしていくことの大切さに気付かせる。
- ・前回の課題『百種類の線』で考え出した線も使っていくことを一案として提示する。
- ・工夫して線を引いている生徒の作品をとりあげ、制作にとまどいのある生徒への参考にさせたい。

- ・埋めていく面は、模様や図柄など、各自の考えで埋めていくことを再確認する。その際、世間に流通しているキャラクターやマークを使用すると、そのイメージが強く画面が支配されるので、使用しないように伝える。
- ・上手に描くことよりも、自分が心を動かされるもので埋め尽くされた画面の魅力を伝える。
- ・内容に関しては、自分のテーマや物語をつかって制作していくことも一案であることを伝える。

- ・鉛筆の濃淡の魅力を生かして制作することで、作品の個性も強調されることを伝える。鉛筆を使った描き方については、鉛筆デッサンの資料を見返し、振り返らせる。
- ・鉛筆で塗る、消しゴムで消しとる、指や布などを使ってぼかすといった作業で、各自の表現方法に幅をもたせる。
- ・鉛筆の種類についても、Hからや2B、4Bと濃さの違いも説明し、道具への関心をもたせるとともに、鉛筆の濃淡の変化にもこだわりをもって、制作にあたらせたい。
- ・簡単な道具であればこそ、作品として仕上げるには、丁寧さが重要であることを伝え、制作に対し慎重さをもって臨ませたい。

- ・完成に向けては、一つひとつの面の完成度も大切だが、画面全体のバランスも考慮しながら、仕上げていくことで一枚の絵となっていくことを伝える。

**想** 感性や想像力を働かせ、自分らしさを基に主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。  
〔観察・作品〕

- ・制作が進まない生徒には、写真資料を提示し、その中から選択して、作品にしていくことも考えさせる。

- ・前年度の生徒作品を提示し、時間と気持ちを込めて描けば、魅力ある面が作れることを確認し、作品の完成度を高める意欲につなげたい。
- ・同じ材料でも違った雰囲気をもった作品が、人の個性の数だけ作られることを伝え、完成への意欲をもたせたい。

- ・最終的に作品には、タイトルを付けて完成させることを告げ、作品としての意識を高める。
- ・次回に向けて、各自描くために必要な資料を用意し、スムーズに制作が進められるようにすることを伝える。

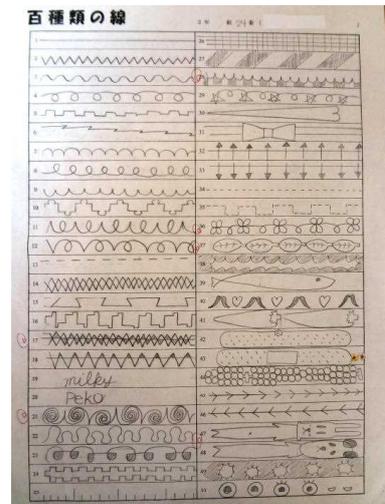
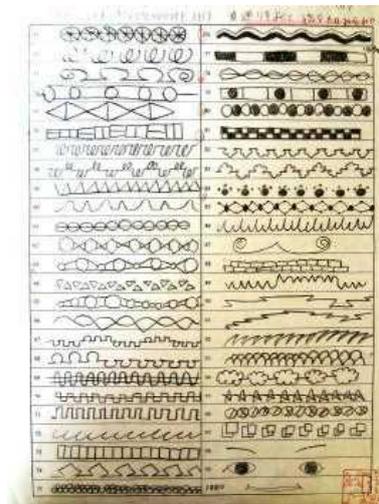
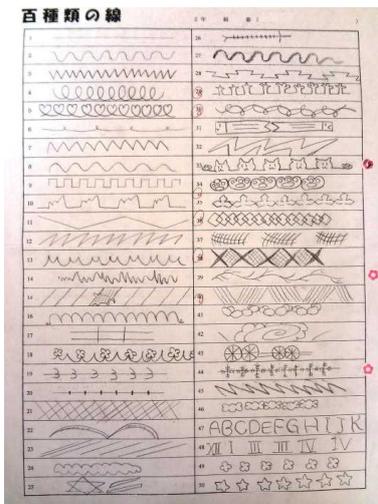
### 3 成果と課題

生徒たちの自己評価の観点とは題材『面の達人』の内容に合わせ、5つ設定した。①自分らしさを表現することに関心をもって取り組もうとした（関心・意欲・態度）②自分らしい、すてきな面がたくさん考えられた（発想や構想の能力）③自分のイメージに合わせて、鉛筆の特徴を生かして描いた（創造的な技能）④全体のバランスを意識して構成を考えた（発想や構想の能力）⑤最後まで丁寧に仕上げようと取り組んだ（関心・意欲・態度）。このうち、観点②の自己評価では、「十分満足」のAをつけた生徒が28人中24人いた。その他、「おおむね満足」Bが3人、「努力を要する」Cが1人という結果だった。本題材において、生徒たちの多くが作品に“自分らしさ”を込められたと感じられたことが分かる。また、自己評価の観点①でAを付けた生徒が26人、Bが2人と、ほとんどの生徒が関心・意欲・態度を高く評価していた。授業中の生徒たちの取組の様子でも、はじめに1枚の紙をわたされ「2時間かけて仕上げる」と聞かされたときには、「そんなに時間かからないのでは」と呟いていたが、次第に制作に没頭し、鑑賞前には「時間が足りない」と作品を持ち帰って仕上げてくる生徒も多く、意欲が感じられた。“自分らしさ”とは何か考えながら、本題材に意欲をもって取り組めたという満足感を、今後の作品制作の自信にもつなげさせたい。

さらに“今後の課題制作における発想や構想を練るヒントを身に付ける”という内容に関して事後のアンケートを行った。「アイデアを出すにはどうしたらよいか」という質問の回答で、最も多かったのは「周囲の景色や本をよく見て参考にする」「身近なものをアレンジする」「日常的なことを意識する」などの意見である。また、「色々な方向から見たり、組み合わせたりする」「自分の好きなものを思い浮かべる」「友だちの作品を参考にする」という意見もあった。発想や構想をするためには、足がかりになるものを見つけ、そこから自分らしさを広げていく方法があることを、題材を通して実感できたことが分かる。これからの作品制作にも、発想方法の一つとして取り入れていくことで、さらに各自が“自分らしい”表現や内容について考えを深めていけるよう支援していきたい。

参考：中学校美術科ワークショップ3「イメージと発想の展開編」  
東山明監修  
明治図書出版株式会社発行

#### 資料1 『生徒作品』「百種類の線」



#### 資料2 『生徒作品』「面の達人」



